

夜間学校 ニュース

1988年 7月 28日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなでつくろう

みんなの 会館

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

明け方の雨は

やっぱり 約一週間

こたえるネ

一二数週間、週に二回ほど、三、四人で青カンをしていて仲間から話を聞いてまわっている。
なんのためにかというところ、青カンをしていくという仲間が多かった。
その事実を、被害者から聞きとり、社会全体として考えらるべき問題として訴える

ためである。
二十日の水曜日に、心斎橋の辺りで聞きとりをしたところ、二二のころの雨で仕事に行けなかったために青カンをしているという仲間が多かった。
本当に、暑いパターンで雨が降ったものだ。朝の七時か八時ぐらいまで雨が降って、それからあがる。二

れでは仕事に行きにくいのもあたりまえだ。それが約一週間続いたのだから、手帳を持っていない仲間はたまったものではなかったろう。
それともう一つ、四月の十六、十七ごろから青カンをするようになった。という仲間にもよく出会う。
今年の四月から七月にかけては、二二数年の中では、仕事が変わりがあるほうだった。
それでも顔付でハジキ出される仲間が多くなっているというところ。ころばぬ先のツエ

仲間の死

本籍自新広島県呉市東本通一丁目六番地、住居西成区千本中二一七一四三、氏名自新新村富士雄、54歳の男、遺留金品現金11,785円、腕時計、鍵、組合員証、印鑑、財布、小銭入れ
右の者は、昭和60年7月21日午後9時ごろ西成区太子1-6-12地下鉄動物園前駅にて発見されたもので、同日午後8時ごろ同所において死亡(死因不詳検察中)したものと思われる。
北斎場にて火葬に付したので心あたりの方は西成区後所

相互扶助推進協議会とは？

わたしたち相互扶助推進協議会は、人々の暮らしが政治などにたよらなくてもお互いのたすけあいで成り立って行くものだという考えから、国だとか政治・宗教団体とは別に、住民が直接みずからの欲求を実現する相互扶助を行うため、運動するものです。

相互扶助とは、簡単に言えば自分達のことは自分達で助けてあげて実現しようと言うことで慈善事業や様々な機関が行っている福祉や生活向上の運動とは根本的に違うものです。要は、お互いの立場を尊重しあい平和的にそれぞれが生きていく為のたすけあいなのです。

現在のところ、協議会の実態はほとんどゼロに近い状態です。しかし、何事も最初はゼロから始まるのであり、実際に多くの困難を抱えた人々が存在する以上それを直接解決できる相互扶助の推進が多くの住民の皆さんが望んでいるわけであり、協議会の活動が大きくふくらんでいく可能性は高いといえるでしょう。

一人でも多くの住民の皆さんが協議会に結集し、相互扶助の推進のために共に活動していくことを希望します。相互扶助の推進は文字どおり一方的に行われるのではなく、お互いにたすけあう事のなかから行われるのです。

以下に紹介する規約を検討してください。

【相互扶助推進協議会規約】

- (1) 協議会は、すべての住民の、あらゆる欲求の実現を最大の目的とし、自由意思の不可侵を絶対のおきとして、相互扶助の推進を主要な方法とし、正当防衛以外は平和を唯一の手段とする。
- (2) 協議会は、多種多様な民族、階級、宗教、思想、路線、価値観の住民からなる自由で平和な連合体、共同体である。
- (3) 協議会は、運動方針を協議するための会議を設ける。協議会の会員は誰でも自由にこの会議を開催し、これに出席し、意見を述べ方針を提起することができ、協議会の会議に提起された方針は、その内容が規約に違反するものでないかぎり、すべて採用され、提起者および賛同者によって執行される。
- (4) 協議会の主旨に賛同し入会を希望する住民は、規約を承認し必要な手続きを経て会員になれる。脱会は自由である。なお規約に違反しかつ違反を自己批判せざる会員は除名される。
- (5) 協議会は、通信「相互扶助」を発行する。
- (6) 協議会は、黒旗を掲げる。
- (7) 協議会の本規約は、1988年1月1日をもって効力を発する。本規約に定められていない問題については、各会員が本規約の精神に基づいて処理する。

※なお諸々の事情で協議会に結集することはできないが、相互扶助の推進には賛成なので外部から協力していきたいという方は賛助会員になってください。お互いの立場を尊重すること、矛盾は平和的に解決すること、の二点に同意すれば誰でも賛助会員となることができます。

当協議会では、通信「相互扶助」を介して全国の住民の多種多様な要求を取り上げ、これを再び全国の住民の中に持ち込んで協力を求める、ということをやっています。こうした活動の積み重ねて行くことにより、全国の住民の相互扶助の実現、推進を計りたいと考えています。

この通信を手にした皆さんは、どのようなことでも、他者の協力が必要なことがあれば当協議会にご連絡下さい。

「相互扶助推進協議会」は、南取安の西どなり、元々の赤軍ラーメン、元釜ヶ崎労働者生協のあったところにある。現在は「労働者食堂」。

新第一ビルに引っ越してこよう。幸福のキ

「人間はなんのために生きてい

るのか、人間は幸福になるために、すなわち自己のあらゆる欲求を実現するために生きています。

人間の欲求は多種多様である

か、そのうち自己の力だけでは

現することのできる欲求はごくわずかで、大部分の欲求はその実現には他人の扶助を必要とします。私たちはすべての住民の、実現には他人の扶助を必要とするあらゆる欲求の実現に向けて、相互扶助を推進していく活動として

あり、この和紛もそのために発信せよました。以下略

当面、目的のない人も、人の助けとなるものがあほほど、この世の支えとなるかを確信で

キめるのが相互扶助の良ところ。と、考え入る。一変、ノゾいてきたら